

性に関する教育における学習内容と指導者に関する一考察

— 養護教諭の関わりに着目して —

鈴木志帆*・青柳直子**

(2020年10月21日受理)

Survey of High School Students' Perceptions of Sexual Education : Focusing on *Yogo* Teachers
Intervention

Shiho SUZUKI and Naoko AOYAGI

キーワード: 性に関する教育, 性に関する学習内容, 養護教諭, 指導者

近年、性の逸脱行動や性感染症の低年齢化などが社会問題となっており、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。このため、学校における性に関する教育は重要性が増している。一方で、嫌悪感や不快感を持ちながら性に関する教育を受けている子どもたちが一定数いると考えられる。そこで本研究では、学校で性に関する教育を行うにあたり、子どもたちが負の感情を持たずに学習できるようにするためには、どのような学習内容や表現に気を付ければよいかを明らかにするとともに、どのような学習内容をどの指導者が指導することが望まれているのか、そこに養護教諭が関わっていくことが有効であるかを明らかにし、性に関する教育への養護教諭の関わり方を考察することを目的とした。結果として、性感染症や異性の性機能や体の発達などの学習内容に対して生徒がマイナスの印象を待ちやすいことが示された。生々しさを感じさせる視覚教材は、マイナスの印象を持つ要因になりやすく、子どもたちの発達段階や特性、反応などをよく観察し理解して使用することが必要であることが示唆された。性に関する教育に養護教諭が関わることを望む生徒が多いことが明らかになった。特に、性に関する教育の生理学的側面、性行為付随側面の学習内容では、養護教諭の専門性や生徒との関係性を生かして積極的に指導を行うことが有効であると考えられた。

はじめに

近年、性情報の氾濫や子どもたちを取り巻く社会環境の変化などにより、性の逸脱行動や性感染症の低年齢化などが社会問題となっている。性感染症の中でも、梅毒の罹患者に関しては2013年以降増加しており、とりわけ若年女性が多いと報告されている¹⁾。また、20歳未満の人工妊娠中絶

*福島県喜多方市立姥堂小学校 **茨城大学教育学部

件数は、若干の減少がみられるもののほぼ横ばいの状態が続いており²⁾、児童ポルノ事件や児童買春などの子どもの性被害の件数も近年上昇傾向にある³⁾。

このような環境の中で、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。このため、学校における性に関する教育は重要性が増している。

一方、石井と木山の調査⁴⁾によると、大学生の約2割が今まで受けてきた性教育に対してネガティブな印象を持ったことがあることが明らかになっている。このことから、嫌悪感や不快感を持ちながら性に関する教育を受けている子どもたちが一定数いると考えられる。

性に関する教育を効果的かつ着実に進めるためには、学校全体で共通理解を図るとともに、各教科と関連を図った指導が重要であり、学校全体として統一のとれた形で推進していく必要がある⁵⁾。また、指導内容によっては、養護教諭や学校医の協力を求めることも大切であるとされている⁶⁾。したがって、養護教諭は学校全体で進められる性に関する教育に専門性を持った教員として積極的に関わっていかなければならない。加えて、下村の調査⁷⁾では、養護教諭が性に関する教育を行ったところ生徒の98%が「よかった」と答えたことから、子どもたちが負の感情を持たずに性に関する教育を受けるためには、養護教諭が指導者として関わっていくことが有効であると考えられる。

そこで、本研究では、学校で性に関する教育を行うにあたり、子どもたちが不快感や拒絶感などの負の感情を持たずに学習できるようにするためには、どのような学習内容や表現に気を付ければよいかを明らかにするとともに、どのような学習内容をどの指導者が指導することが望まれているのか、そこに養護教諭が関わっていくことが有効であるかを明らかにし、性に関する教育への養護教諭の関わり方を考察することを目的とした。

研究方法

1. 調査内容

2019年11月～12月に、F県内の公立高等学校2校の第1、2学年の生徒455名（第1学年298名、第2学年157名）を対象として、無記名自己記入式質問紙調査を実施した。質問票については学校訪問および郵送法にて配布と回収を行った。

質問票には、「性に関する教育に対する印象とその内容および理由」「性に関する学習内容において望む指導者」「性に関する教育への養護教諭の関わり方」などの項目を設定した。得られた情報はExcel 2013を用い、集計と分析を行った。

2. 倫理面への配慮

本調査は無記名で行い、回答を依頼した際に回答は強制ではないことや途中でやめることができること、研究結果は研究目的以外で使用せず、回答した個人が特定されることはないことを紙面にて説明した。質問紙への回答、本人による提出をもって本調査への協力の同意を得たと判断した。

結果

1. 対象者の基本的属性

配布数455名に対し、全体の回収数（回収率）は426（93.6%）であり、有効回答数（有効回答率）は423（99.3%）であった。対象者の学年と性別の内訳は、第1学年281名（66.4%）、第2学年142名（33.6%）、男子198名（46.8%）、女子225名（53.2%）であった。

2. 性に関する教育に対する印象とその学習内容および理由

(1) 性に関する教育に対する印象

今まで受けてきた性に関する教育に対する印象について、マイナスの印象（いやだ、気持ちが悪い、やりたくない、恥ずかしいなど）を「1」、プラスの印象（楽しい、おもしろい、もっと知りたい、大切なことだと思うなど）を「5」として5件法で回答を得た。

全体では、「3」が240名（56.7%）で最も多く、次いで「4」が22.7%であった。性別では、男子は「3」が106名（53.5%）で最も多く、次いで「4」が24.2%であった。女子も同様に「3」が134名（59.6%）と最も多く、次いで「4」が21.3%であった。

(2) 性に関する教育に対する印象を持った学習内容

前項で得られた印象について、どのような学習内容に対して持ったのかを、「その他」を含む10項目から回答を得た。マイナスの印象を持つ学習内容とプラスの印象を持つ学習内容についてそれぞれ考察するため、前の問で、「1」または「2」と回答した群をマイナスの印象を持つ群（44名）、「4」または「5」と回答した群をプラスの印象を持つ群（139名）として集計した。

1) マイナスの印象を持つ群

マイナスの印象を持つ群が回答した学習内容について、全体では、「性感染症・エイズ」17名（38.6%）が最も多く、次いで「精通・射精」7名（15.9%）であった（表1）。性別では、男子は「性感染症・エイズ」9名（52.9%）が最も多く、次いで「思春期の心の変化」3名（17.6%）であった。女子は「性感染症・エイズ」8名（29.6%）が最も多く、次いで「精通・射精」6名（22.2%）であった。

表1 印象を持った学習内容（マイナスの印象を持つ群）

	全体(N=44)		男子(n=17)		女子(n=27)	
	n	%	n	%	n	%
思春期のからだの変化	6	13.6	1	5.9	5	18.5
思春期の心の変化	5	11.4	3	17.6	2	7.4
性感染症・エイズ	17	38.6	9	52.9	8	29.6
初経・月経	1	2.3	0	0.0	1	3.7
精通・射精	7	15.9	1	5.9	6	22.2
異性の尊重	0	0.0	0	0.0	0	0.0
妊娠・出産・生命の誕生	1	2.3	0	0.0	1	3.7
避妊・望まない妊娠	1	2.3	1	5.9	0	0.0
正しい性情報の選択	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	6	13.6	2	11.8	4	14.8

2) プラスの印象を持つ群

プラスの印象を持つ群が回答した学習内容について、全体では、「性感染症・エイズ」27名(19.4%)が最も多く、次いで「妊娠・出産・生命の誕生」23名(16.5%)であった(表2)。性別では、男子は、「性感染症・エイズ」19名(25.3%)が最も多く、次いで「異性の尊重」13名(17.3%)であった。女子では、「妊娠・出産・生命の誕生」19名(29.7%)が最も多く、次いで「性感染症・エイズ」8名(12.5%)、「正しい性情報の選択」8名(12.5%)であった。

表2 印象を持った学習内容(プラスの印象を持つ群)

	全体(N=139)		男子(n=75)		女子(n=64)	
	n	%	n	%	n	%
思春期のからだの変化	6	4.3	5	6.7	1	1.6
思春期の心の変化	12	8.6	7	9.3	5	7.8
性感染症・エイズ	27	19.4	19	25.3	8	12.5
初経・月経	4	2.9	1	1.3	3	4.7
精通・射精	2	1.4	2	2.7	0	0.0
異性の尊重	18	12.9	13	17.3	5	7.8
妊娠・出産・生命の誕生	23	16.5	4	5.3	19	29.7
避妊・望まない妊娠	13	9.4	6	8.0	7	10.9
正しい性情報の選択	17	12.2	9	12.0	8	12.5
その他	2	1.4	1	1.3	1	1.6
無回答	15	10.8	8	10.7	7	10.9

(3) 性に関する教育に対する印象を持った原因・理由

前項で得られた印象を持った原因や理由について、「その他」を含む6項目から回答を得た。また、その原因や理由の詳細について、自由記述式で回答を得た。自由記述式の回答で使用された単語について、以下の3つに分類して集計した。

- ①教科書や写真、ビデオなどの授業で使われる「教材に関わる語句」
- ②体の部位や性に関わる事象の名称などの性教育の「学習内容に関する語句」
- ③性に関する教育に対して感じたことや指導者の印象などの性教育の「イメージに関する語句」

マイナスの印象を持つ原因や理由とプラスの印象を持つ原因や理由についてそれぞれ考察するため、前の問で、「1」または「2」と回答した群をマイナスの印象を持つ群(44名)、「4」または「5」と回答した群をプラスの印象を持つ群(139名)として集計した。

1) マイナスの印象を持つ群

マイナスの印象を持つ群が回答した原因や理由について、全体では「授業の中で使われた資料」16名(36.5%)が最も多く、次いで「授業の中で使われた言葉」12名(27.3%)であった(表3)。性別では、男子は「授業の中で使われた資料」6名(35.3%)が最も多く、次いで「授業の中で使われた言葉」4名(23.5%)であった。女子も「授業の中で使われた資料」10名(37.0%)が最も多く、次いで「授業の中で使われた言葉」8名(29.6%)であった。

表3 印象を持った原因・理由(マイナスの印象を持つ群)

	全体(N=44)		男子(n=17)		女子(n=27)	
	n	%	n	%	n	%
授業の中で使われた言葉	12	27.3	4	23.5	8	29.6
授業の中で使われた資料	16	36.4	6	35.3	10	37.0
授業をする先生の雰囲気や態度	7	15.9	3	17.6	4	14.8
授業をする先生との関係	1	2.3	0	0.0	1	3.7
授業の中で行った活動	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	5	11.4	2	11.8	3	11.1
無回答	3	6.8	2	11.8	1	3.7

自由記述では、学習内容に関わる語句が最も多く使われており、「性感染症」「エイズ」が多く使われていた。教材に関わる語句では、動画や静止画の視覚教材の名称が使われていた(表4)。

表4 単語の分類と使用された回数(マイナスの印象を持つ群)

内容	使用された回数	使用された語句(使用された回数)
①教材に関わる語句	4	画像(1), ビデオ(1), 図(1), 絵(1)
②学習内容に関わる語句	10	性器(1), 性感染症(3), エイズ(4), 出産(1), 裸(1)
③イメージに関わる語句	4	不適切(1), 怖さ(1), 死ぬ(1), 大切(1)

2) プラスの印象を持つ群

プラスの印象を持つ群が回答した原因や理由について、全体では「授業の中で使われた資料」51名(36.7%)が最も多く、次いで「授業の中で使われた言葉」43名(30.9%)であった(表5)。性別では、男子は「授業の中で使われた言葉」29名(38.7%)が最も多く、次いで「授業の中で使われた資料」21名(28.0%)であった。女子は「授業の中で使われた資料」30名(46.9%)が最も多く、次いで「授業の中で使われた言葉」14名(21.9%)であった。

表5 印象を持った原因・理由(プラスの印象を持つ群)

	全体(N=139)		男子(n=75)		女子(n=64)	
	n	%	n	%	n	%
授業の中で使われた言葉	43	30.9	29	38.7	14	21.9
授業の中で使われた資料	51	36.7	21	28.0	30	46.9
授業をする先生の雰囲気や態度	23	16.5	13	17.3	10	15.6
授業をする先生との関係	4	2.9	2	2.7	2	3.1
授業の中で行った活動	6	4.3	2	2.7	4	6.3
その他	6	4.3	4	5.3	2	3.1
無回答	6	4.3	4	5.3	2	3.1

自由記述では、学習内容に関わる語句、イメージに関わる語句が多く使われていた。学習内容に関わる語句では、「妊娠」「出産」「赤ちゃん」などの生命の誕生に関する語句が多く使われていた。イメージに関わる語句では、「大切」や「真剣」が多く使われていた(表6)。

表6 単語の分類と使用された回数(プラスの印象を持つ群)

分類	使用された回数	使用された語句(使用された回数)
①教材に関わる語句	18	グラフ(2), 教科書(7), 資料(3), 写真(3), ビデオ(1), DVD(1), 映像(1)
②学習内容に関わる語句	23	妊娠(2), 出産(2), 命(1), 生命(1), エイズ(1), 性感染症(2), 避妊(2), 心理(2), 赤ちゃん(3), 誕生(2), 望まない妊娠(3), マスターベーション(1), LGBTQ(1)
③イメージに関わる語句	23	大切(4), 大事(2), 重要(1), 真剣(4), 幸せ(2), 優しく(2), 熱心(1), 安心(1), どうどうと(1), 危険(1), 怖い(1), 知りたい(1), 感動(1), 驚いた(1)

3. 性に関する教育のそれぞれの学習内容において望む指導者

性に関する教育の9つの学習内容のそれぞれをどの指導者に教えてほしいかについて、「その他」を含む8項目から回答を得た(表7)。

(1) 思春期のからだの変化

全体では「保健体育の先生(男性)」133名(34.0%)が最も多く、次いで「保健室の先生(女性)」118名(30.2%)であった。性別では、男子は「保健体育の先生(男性)」123名(69.1%)が最も多く、次いで「保健室の先生(女性)」14名(7.9%)であった。女子は「保健室の先生(女性)」104名(48.8%)が最も多く、次いで「保健体育の先生(女性)」80名(37.5%)であった。

(2) 思春期の心の変化

全体では「保健体育の先生(男性)」135名(34.5%)が最も多く、次いで「保健室の先生(女性)」113名(28.9%)であった。性別では、男子は「保健体育の先生(男性)」119名(66.9%)が最も多く、次いで「保健室の先生(女性)」16名(9.0%)であった。女子は「保健室の先生(女性)」97名(45.5%)が最も多く、次いで「保健体育の先生(女性)」76名(35.7%)であった。

(3) 性感染症・エイズ

全体では「保健体育の先生(男性)」131名(33.4%)が最も多く、次いで「保健室の先生(女性)」121名(30.9%)であった。性別では、男子は「保健体育の先生(男性)」115名(64.2%)が最も多く、次いで「学校外の先生・外部講師」20名(11.2%)であった。女子は「保健室の先生(女性)」104名(48.8%)が最も多く、次いで「保健体育の先生(女性)」71名(33.3%)であった。

(4) 初経・月経

全体では「保健室の先生（女性）」147名（37.6%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（男性）」105名（26.9%）であった。性別では、男子は、「保健体育の先生（男性）」101名（56.7%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」18名（10.1%）であった。女子は「保健室の先生（女性）」129名（60.6%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（女性）」61名（28.6%）であった。

(5) 精通・射精

全体では「保健体育の先生（男性）」136名（34.7%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」122名（31.1%）であった。性別では、男子は「保健体育の先生（男性）」116名（64.8%）が最も多く、次いで「学校外の先生・外部講師」17名（9.5%）であった。女子は「保健室の先生（女性）」107名（50.2%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（女性）」58名（27.2%）であった。

(6) 異性の尊重

全体では「保健体育の先生（男性）」132名（33.8%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」110名（28.1%）であった。性別では、男子は「保健体育の先生（男性）」114名（64.0%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」17名（9.6%）であった。女子は「保健室の先生（女性）」93名（43.7%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（女性）」72名（33.3%）であった。

(7) 妊娠・出産・生命の誕生

全体では「保健室の先生（女性）」129名（32.9%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（男性）」117名（29.8%）であった。性別では、男子は「保健体育の先生（男性）」107名（59.8%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」20名（11.2%）であった。女子は「保健室の先生（女性）」109名（51.2%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（女性）」69名（32.4%）であった。

(8) 避妊・望まない妊娠

全体では「保健室の先生（女性）」130名（33.2%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（男性）」120名（30.7%）であった。性別では、男子は「保健体育の先生（男性）」108名（60.7%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」19名（10.7%），「学校外の先生・外部講師」19名（10.7%）であった。女子は「保健室の先生（女性）」111名（52.1%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（女性）」65名（30.5%）であった。

(9) 正しい性情報の選択

全体では「保健体育の先生（男性）」126名（32.3%）が最も多く、次いで「保健室の先生（女性）」116名（29.7%）であった。性別では、男子は「保健体育の先生（男性）」112名（62.9%）が最も多く、次いで「学校外の先生・外部講師」21名（11.8%）であった。女子は「保健室の先生（女性）」106名（47.2%）が最も多く、次いで「保健体育の先生（女性）」74名（34.9%）であった。

た。

表7 それぞれの学習内容において望む指導者

		学級担任 (男性)		学級担任 (女性)		保健体育の先生 (男性)		保健体育の先生 (女性)		保健室の先生 (男性)		保健室の先生 (女性)		学校外の先生 ・外部講師		その他	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
思春期のからだの変化	全体(N=391)	4	1.0	4	1.0	133	34.0	83	21.2	9	2.3	118	30.2	20	5.1	20	5.1
	男子(n=178)	4	2.2	2	1.1	123	69.1	3	1.7	9	5.1	14	7.9	10	5.6	13	7.3
	女子(n=213)	0	0.0	2	0.9	10	4.7	80	37.5	0	0.0	104	48.8	10	4.7	7	3.3
思春期の心の变化	全体(N=391)	8	2.0	7	1.8	135	34.5	78	19.9	8	2.0	113	28.9	21	5.4	21	5.4
	男子(n=178)	7	3.9	2	1.1	119	66.9	2	1.1	8	4.5	16	9.0	11	6.2	13	7.3
	女子(n=213)	1	0.5	5	2.3	16	7.5	76	35.7	0	0.0	97	45.5	10	4.7	8	3.8
性感染症・エイズ	全体(N=392)	3	0.8	3	0.8	131	33.4	74	18.9	6	1.5	121	30.9	35	8.9	19	4.8
	男子(n=179)	3	1.7	3	1.7	115	64.2	3	1.7	6	3.4	17	9.5	20	11.2	12	6.7
	女子(n=213)	0	0.0	0	0.0	16	7.5	71	33.3	0	0.0	104	48.8	15	7.0	7	3.3
初経・月経	全体(N=391)	2	0.5	3	0.8	105	26.9	77	19.7	8	2.0	147	37.6	28	7.2	21	5.4
	男子(n=178)	2	1.1	3	1.7	101	56.7	16	9.0	8	4.5	18	10.1	16	9.0	14	7.9
	女子(n=213)	0	0.0	0	0.0	4	1.9	61	28.6	0	0.0	129	60.6	12	5.6	7	3.3
精通・射精	全体(N=392)	3	0.8	2	0.5	136	34.7	82	20.9	12	3.1	122	31.1	30	7.7	25	6.4
	男子(n=179)	3	1.7	2	1.1	116	64.8	4	2.2	8	4.5	15	8.4	17	9.5	14	7.8
	女子(n=213)	0	0.0	0	0.0	20	9.4	58	27.2	4	1.9	107	50.2	13	6.1	11	5.2
異性の尊重	全体(N=391)	9	2.3	9	2.3	132	33.8	77	19.7	6	1.5	110	28.1	26	6.6	22	5.6
	男子(n=178)	7	3.9	2	1.1	114	64.0	6	3.4	5	2.8	17	9.6	15	8.4	12	6.7
	女子(n=213)	2	0.9	7	3.3	18	8.5	71	33.3	1	0.5	93	43.7	11	5.2	10	4.7
妊娠・出産・生命の誕生	全体(N=392)	4	1.0	7	1.8	117	29.8	78	19.9	4	1.0	129	32.9	31	7.9	22	5.6
	男子(n=179)	4	2.2	5	2.8	107	59.8	9	5.0	4	2.2	20	11.2	17	9.5	13	7.3
	女子(n=213)	0	0.0	2	0.9	10	4.7	69	32.4	0	0.0	109	51.2	14	6.6	9	4.2
避妊・望まない妊娠	全体(N=391)	4	1.0	4	1.0	120	30.7	74	18.9	5	1.3	130	33.2	34	8.7	20	5.1
	男子(n=178)	4	2.2	2	1.1	108	60.7	9	5.1	5	2.8	19	10.7	19	10.7	12	6.7
	女子(n=213)	0	0.0	2	0.9	12	5.6	65	30.5	0	0.0	111	52.1	15	7.0	8	3.8
正しい性情報の選択	全体(N=390)	5	1.3	5	1.3	126	32.3	78	20.0	6	1.5	116	29.7	35	9.0	19	4.9
	男子(n=178)	5	2.8	3	1.7	112	62.9	4	2.2	6	3.4	16	9.0	21	11.8	11	6.2
	女子(n=212)	0	0.0	2	0.9	14	6.6	74	34.9	0	0.0	100	47.2	14	6.6	8	3.8

4. 指導者の違いによる性に関する教育の印象とその理由

(1) 指導者の違いによる性に関する教育の印象

指導者の違いによって性に関する教育の印象が変化するかについて、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「分からない」の5件法で回答を得た。

全体では、「まあそう思う」156名(38.0%)が最も多く、次いで「そう思う」114名(27.7%)であった。性別では、男子は「まあそう思う」66名(34.4%)が最も多く、次いで「あまりそう思わない」52名(27.1%)であった。女子は、「まあそう思う」90名(36.1%)が最も多く、次いで「そう思う」64名(25.7%)であった。

(2) 指導者の違いによる性に関する教育の印象の理由

指導者の違いによって性に関する教育の印象が変化することの理由について、「その他」を含む5項目から回答を得た。印象が変化すると考える理由と変化しないと考える理由についてそれぞれ考察するため、前の問で「そう思う」または「まあそう思う」と答えた群を「肯定群」(266名)、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた群を「非肯定群」(123名)、「分からない」と答えた群を「不明群」(19名)として、3群に分けて集計した。

1) 肯定群

全体では「同性の先生に教えてもらった方がいいと思うから」117名(43.7%)が最も多く、次いで「くわしい知識を持った先生に教えてもらった方がいいと思うから」110名(41.0%)の順であった(表8)。性別では、男子は「くわしい知識を持った先生に教えてもらった方がいいと思うから」66名(57.4%)が最も多く、次いで「同性の先生に教えてもらった方がいいと思うから」28名(24.3%)であった。女子は「同性の先生に教えてもらった方がいいと思うから」89名(58.2%)が最も多く、次いで「くわしい知識を持った先生に教えてもらった方がいいと思うから」44名(28.8%)であった。

表8 指導者の違いによる性に関する教育の印象の理由(肯定群)

	全体(N=266)		男子(n=114)		女子(n=152)	
	n	%	n	%	n	%
身近な先生に教えてもらった方がいいと思うから	21	7.8	13	11.3	8	5.2
くわしい知識を持った先生に教えてもらった方がいいと思うから	110	41.0	66	57.4	44	28.8
同性の先生に教えてもらった方がいいと思うから	117	43.7	28	24.3	89	58.2
どの先生が教えても同じだと思うから	9	3.4	5	4.3	4	2.6
その他	11	4.1	3	2.6	8	5.2

2) 非肯定群

全体では「どの先生が教えても同じだと思うから」104名(84.6%)が最も多かった。性別でも同様であった。

3) 不明群

全体では「どの先生が教えても同じだと思うから」14名(73.7%)が最も多かった。性別でも同様であった。

5. 性に関する教育への養護教諭の関わり方

養護教諭が性に関する教育にどのように関わることを望むかについて、「その他」を含む5項目から回答を得た(表9)。

全体では「保健室の先生だけで授業をする」255名(61.9%)が最も多く、次いで「保健室の先生がほかの先生と一緒に授業をする」68名(16.5%)であった。性別では、男子は「保健室の先生だけで授業をする」93名(48.4%)が最も多く、次いで「保健室の先生がほかの先生と一緒に授業をする」37名(19.3%)であった。女子は「保健室の先生だけで授業をする」162名(73.6%)が最も多く、次いで「保健室の先生がほかの先生と一緒に授業をする」31名(14.1%)であった。

表9 性に関する教育への養護教諭の関わり方

	全体(N=412)		男子(n=192)		女子(n=220)	
	n	%	n	%	n	%
保健室の先生だけで授業をする	255	61.9	93	48.4	162	73.6
保健室の先生がほかの先生と一緒に授業をする	68	16.5	37	19.3	31	14.1
保健室の先生は授業をせず、授業後の個別の指導や相談のみ行う	50	12.1	29	15.1	21	9.5
保健室の先生には教えてほしいと思わない	34	8.3	30	15.6	4	1.8
その他	5	1.2	3	1.6	2	0.9

6. 養護教諭が関わることで性に関する教育の印象の変化とその理由

(1) 養護教諭が関わることで性に関する教育の印象の変化

養護教諭が関わることで性に関する教育の印象がプラスの印象になるかについて、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「分からない」の5件法で回答を得た。

全体では「まあそう思う」187名(45.5%)が最も多く、次いで「あまりそう思わない」77名(18.7%)であった。性別では、男子は「まあそう思う」78名(40.6%)が最も多く、次いで「あまりそう思わない」42名(21.9%)であった。女子は「まあそう思う」109名(49.8%)が最も多く、次いで「そう思う」「あまりそう思わない」35名(16.0%)であった。

(2) 養護教諭が関わることで性に関する教育の印象が変化する理由

養護教諭が関わることで性に関する教育の印象がプラスの印象になる理由について、「その他」を含む9項目から回答を得た。

プラスの印象になると考える理由とプラスの印象にならないと考える理由についてそれぞれ考察するため、前の問で「そう思う」または「まあそう思う」と答えた群を「肯定群」(232名)、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた群を「非肯定群」(100名)、「分からない」と答えた群を「不明群」(56名)として、3群に分けて集計した。

1) 肯定群

肯定群が回答した理由について、全体では、「知識が豊富だから」124名(50.2%)が最も多く、次いで「親しみがもてるから」40名(16.2%)であった(表10)。性別では、男子は、「知識が豊富だから」67名(65.0%)が最も多く、次いで「親しみがもてるから」15名(14.6%)であった。女子は「知識が豊富だから」57名(39.6%)が最も多く、次いで「同性だから」34名(23.6%)であった。

表10 養護教諭が関わることで性に関する教育の印象が変化する理由(肯定群)

	全体(N=232)		男子(n=98)		女子(n=134)	
	n	%	n	%	n	%
親しみがもてるから	40	16.2	15	14.6	25	17.4
知識が豊富だから	124	50.2	67	65.0	57	39.6
おもしろい授業をしてくれるから	10	4.0	8	7.8	2	1.4
同性だから	34	13.8	0	0.0	34	23.6
異性だから	1	0.4	1	1.0	0	0.0
身近な存在ではないから	2	0.8	1	1.0	1	0.7
話が難しいから	0	0.0	0	0.0	0	0.0
普段授業をしないから	19	7.7	6	5.8	13	9.0
その他	2	0.8	0	0.0	2	1.4

2) 非肯定群

全体では「普段授業をしないから」43名(41.3%)が最も多く、次いで「その他」20名(19.2%)であった。性別では、男子は、「普段授業をしないから」20名(33.3%)が最も多く、

次いで「身近な存在ではないから」13名(21.7%)であった。女子は、「普段授業をしないから」23名(52.8%)が最も多く、次いで「その他」8名(18.2%)であった。

3) 不明群

全体では「普段授業をしないから」37名(61.7%)が最も多く、次いで「話が難しいから」7名(11.7%)であった。性別でも同様であった。

考察

1. 性に関する教育に対する印象とその内容と理由

(1) 性に関する教育に対する印象

性に関する教育に対する印象は、男女ともにマイナスともプラスともいえないという回答が最も多かった。マイナスの印象を持っている生徒は約1割であり、プラスの印象を持っている生徒は約3割であったことから、性に関する教育に対して嫌悪感や不快感、拒絶感を持っている生徒は少ないことが推察された。しかし、約1割の生徒は、嫌悪感や不快感、拒絶感を感じながら性に関する教育を受けているため、全ての生徒がネガティブな印象を持たずに学ぶための手立てが必要であると考えられる。また、マイナスともプラスともいえないという回答が多かったことから、性に関する教育に対して特に印象がなく、無関心な生徒も多いことが推察された。

(2) 性に関する教育に対する印象を持った内容

性に関する教育のどのような内容に対して、今持っている印象を持ったのかについては、マイナスの印象を持つ群とプラスの印象を持つ群に分けて検討した。

マイナスの印象を持つ群では、全体では、「性感染症・エイズ」17名(38.6%)が最も多く、男女別にみても「性感染症・エイズ」が最も多かった。「性感染症・エイズ」の学習内容では、感染経路の説明で性的接触という言葉が使われること、若者に身近な病気であること、特にエイズは進行すると重い症状があらわれること⁸⁾などが説明されることから、嫌悪感や恐怖感を感じる生徒が多いことが考えられる。また、男子では次いで「思春期の心の変化」3名(17.6%)が多く、女子では「精通・射精」6名(22.2%)が多かった。女子にとって、「精通・射精」は異性の体のことであり、内容に対して拒絶感を感じる人が多いことが推察された。

プラスの印象を持つ群では、全体では、「性感染症・エイズ」27名(19.4%)が最も多かった。性別では、男子は「性感染症・エイズ」19名(25.3%)が最も多く、女子では「妊娠・出産・生命の誕生」19名(29.7%)が最も多かった。「性感染症・エイズ」は、その内容や説明に嫌悪感や恐怖感を感じることもある一方で、若者に身近な病気であり、生徒自身も罹患する可能性があることから、「予防法などについてもっと知りたい」、「大切である」と感じている生徒が多いと考えられる。また、女子は、自分の体のこととも関係がある「妊娠・出産・生命の誕生」について、プラスの印象をもって学習している生徒が多いことが推察された。

(3) 性に関する教育に対する印象を持った原因・理由

性に関する教育に対して今持っている印象を持った原因や理由については、マイナスの印象を持つ群とプラスの印象を持つ群に分けて検討した。

マイナスの印象を持つ群では、全体では、「授業の中で使われた資料」16名(36.5%)が最も多く、男女別にみても「授業の中で使われた資料」が最も多かった。次いで「授業の中で使われた言葉」12名(27.3%)が多く、性別でも同様であった。自由記述式の回答では、学習内容に関わる語句が多く使われており、なかでも「エイズ」「性感染症」が多く使われていることから、具体的な病気の説明や病名に恐怖感、拒絶感を感じる生徒が多いことが推察された。また、教材に関する語句では視覚教材の名称が多く使われており、それらは「裸の」「性器の」「出産の」などという単語とともに使われていた。これらのことから、性に関する教育の中で使われる資料の中でも、体の部位が写實的に表現された図や生々しさを感じさせる動画などの視覚教材に嫌悪感や不快感を感じる生徒が多いことが推察された。石井らの調査⁹⁾でも、生々しいと捉えられるような視聴覚表現を避ける、または提示する場合は事前に説明をすることがよい性教育授業につながるということが述べられている。

プラスの印象を持つ群では、「授業の中で使われた資料」51名(36.7%)が最も多かった。性別では、男子は「授業の中で使われた言葉」29名(38.7%)が最も多く、女子では「授業の中で使われた資料」30名(46.9%)が最も多かった。自由記述式の回答では、学習内容や、イメージに関わる語句が多く使われていた。学習内容に関する語句の中では、「妊娠」「出産」「赤ちゃん」「生命」などの生命の誕生に関わる語句が多く使用されていた。これらのことから、妊娠・出産・生命の誕生の学習で使用された資料や言葉に対してプラスの印象を持つ生徒が多いと考えられた。

イメージに関わる語句では、「大切」「重要」などの必要性を表す語句や「真剣」「熱心」「優しい」などの指導者や授業への印象を表す語句が多く使われていたことから、性に関する教育を担当する指導者が熱意をもって指導に取り組むとともに、生徒の気持ちに寄り添う指導を行うことで、性に関する教育の印象がプラスのものになることが推察された。また、教材に関する単語では「写真」「DVD」などの視覚教材の名称が多く使われていた。このことから、性に関する教育で使用する資料は、その生々しさから嫌悪感を感じる生徒がいる一方で、生徒の発達段階や特性、興味関心を考慮して適切に使用することでプラスの印象を与えるものになると考えられた。

2. 性に関する教育のそれぞれの学習内容において望む指導者

性に関する教育の学習内容ごとに、どの指導者に教えてほしいかについて回答を得たところ、「初経・月経」「妊娠・出産・生命の誕生」「避妊・望まない妊娠」では女性養護教諭が最も多く、次いで男性保健体育教師であった。そのほかの学習内容では、男性保健体育教師が最も多く、次いで女性養護教諭であった。養護教諭は、体の機能や発育・発達について専門的な知識を持っており、日常の業務の中で性に関する相談を受けることがある。月経などの生理学的側面、妊娠や避妊などの性行為付随側面に関わる学習内容の指導が求められていることが示された。また、月経については女性の体の現象であり、男性の教師から教わることに抵抗があることが推測され、詳しい知識を持った女性の教師である養護教諭の指導が求められていることが示唆された。そのほかの学習内容では、普段から保健体育の授業の中で性教育に関する事項を多く取り扱っていることから、男性保健体育教師が望まれていることが推察される。どの学習内容においても、男性保健体育教師と女性養

護教諭を望む割合が高かったことから、保健体育教師と養護教諭が連携・協力して性に関する教育を行うことが有効であると考えられた。

3. 指導者の違いによる性に関する教育の印象とその理由

(1) 指導者の違いによる性に関する教育の印象の変化

指導者の違いによって性に関する教育の印象が変化するかについては、全体では、「まあそう思う」が約4割で最も多く、次いで「そう思う」が約3割であった。性別でも「そう思う」「まあそう思う」と答えた生徒が6割を超えていたことから、指導者が性に関する教育の印象に影響を与えるということが推察された。

(2) 指導者の違いによって性に関する教育の印象が変化すると考える理由

指導者の違いによって性に関する教育の印象が変化すると考える理由については、「そう思う」または「まあそう思う」と答えた肯定群、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた非肯定群、「分からない」と答えた不明群に分けて検討した。

肯定群では、全体では、「同性の先生に教えてもらった方がいいと思うから」117名(43.7%)が最も多く、次いで「くわしい知識を持った先生に教えてもらった方がいいと思うから」110名(41.0%)であった。男子では「くわしい知識を持った先生に教えてもらった方がいいと思うから」66名(57.4%)が最も多く、女子では「同性の先生に教えてもらった方がいいと思うから」89名(58.2%)が最も多かった。これらのことから、性に関する学習内容は同性の指導者に教えてもらうことが望まれていることが推測される。また、多くの生徒は詳しい知識を持った指導者を望んでおり、指導者が知識や専門性を高めて指導に当たることで、性に関する教育の印象がプラスの印象に改善されるのではないかと考えられる。

4. 性に関する教育への養護教諭の関わり方

全体では、「保健室の先生だけで授業をする」が6割で最も多く、次いで「保健室の先生がほかの先生と一緒に授業をする」が約2割で、性による違いはみられなかった。このことから、多くの生徒が養護教諭のみでの指導を求めており、養護教諭の指導力の向上と性に関する教育に関わる機会の確保が必要であることが示唆された。次いで養護教諭と他の教員とのチームティーチングでの授業が望まれていることから、他教員との連携を図りつつ指導を行うことが求められていると考えられる。

5. 養護教諭が関わることによる性に関する教育の印象とその理由

(1) 養護教諭が関わることによる性に関する教育の印象の変化

養護教諭が性に関する教育に関わることで印象がプラスのものに変化するかについては、全体では「まあそう思う」187名(45.5%)が最も多かった。性別でも同様であった。全体でも性別でも5割以上の生徒が養護教諭が性に関する教育に関わることにに対して好意的であることから、性に関する教育の印象をプラスのものにするために養護教諭が指導に関わっていくことが有効であると考えられる。また、男子より女子の方が「そう思う」「まあそう思う」と答えた割合が高かったことから、

女子の方が、養護教諭が関わることで性に関する教育の印象が良くなると考えている生徒が多いことが推察された。

(2) 養護教諭が関わることで性に関する教育の印象が変化すると考える理由

養護教諭が関わることで性に関する教育の印象が変化すると考える理由については、「そう思う」または「まあそう思う」と答えた肯定群、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と答えた非肯定群、「分からない」と答えた不明群に分けて検討した。

肯定群では、全体では「知識が豊富だから」が5割で最も多かった。性別でも同様に「知識が豊富だから」が最も多かった。このことから、養護教諭が性に関する教育に関わるときには、専門的な知識を持って指導することが求められており、そのことが性に関する教育の印象をプラスのものにするということが推察された。また、女子では次いで「同性だから」が2割であった。養護教諭の多くは女性であり、これらのことから、女子の方が性に関する教育は同性の指導者に指導してもらうことを望んでいると考えられた。

非肯定群、不明群では、「普段授業をしないから」が最も多かった。橋本らの調査¹⁰⁾では、性教育を担当している養護教諭は42.1%であった。このことから、日常的に指導に参加している養護教諭は多くないため、なじみがない、授業をしている印象がないという理由で指導者として良いかどうか判断できないという面もあることが推察された。

まとめ

本研究によって、性に関する教育にマイナスの印象を持つ生徒は多くはないが一定数存在し、性感染症や異性の性機能などの学習内容や、生々しさを感じさせる視覚教材がマイナスの印象を持つ要因となりやすいことが明らかになった。また、養護教諭が専門的な知識を持った教員として性に関する教育に関わることに對して好意的な生徒が多いことが明らかになった。これらのことから、子どもたちが負の感情を持たずに性に関する教育を受けられるようにするための手立てとして考えられることは、以下の二点である。

第一点は、子どもたちがマイナスの印象を持ちやすい学習内容を把握し、授業で使用する資料や言葉、指導を担当する教員などに配慮することである。学習内容によって専門的な知識を持った指導者や同性の指導者による授業を実施すること、子どもたちの特性や反応などをよく観察し理解した上で適切な資料や言葉を選んで使用することなどといった配慮が必要である。

第二点は、養護教諭が積極的に性に関する指導に関わっていくことである。特に性に関する教育の生理学的側面・性行為付随側面の学習内容については、養護教諭の専門性を生かして指導を行うことが重要である。そのために養護教諭は自らの知識と指導力を高めることが必要である。また、他の教員と連携を図り、それぞれの専門性や子どもたちとの関係性を生かしながら、養護教諭が性に関する教育に関わる機会を持つようにしていくことが必要である。

以上の二点に加え、学校種や子どもの発達段階に合わせた適切な指導者の関わり方や授業時に必要な配慮について、明らかにしていくことが今後の課題である。

謝辞

本調査を実施するにあたり、調査へのご理解とご協力を賜りましたF県の公立高等学校の諸先生方ならびに生徒の皆様へ、心より感謝申し上げます。

注

- 1) 日本性教育協会「現代性教育研究ジャーナル」
(https://www.jase.faje.or.jp/jigyo/journal/seikyoiku_journal_201905.pdf, 2019年11月19日閲覧)
- 2) 厚生労働省「平成30年度衛生行政報告例の概況」
(https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/18/dl/kekka6.pdf, 2019年11月19日閲覧)
- 3) 警察庁「平成30年度上半期における少年非行児童虐待及び子供の性被害の状況」
(https://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/hikou_gyakutai_sakusyu/H30-1.pdf, 2019年11月22日閲覧)
- 4) 石井里佳, 木山慶子「学習者が嫌悪感・不快感を抱く性教育授業の特徴 大学生が既習した授業内容に着目して」『第68回日本体育学会大会予稿集』(2017), 251.
- 5) 茨城県教育委員会「性に関する指導の手引き」
(<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/karada/hoken/sei/ikkatsu.pdf>, 2019年11月19日閲覧)
- 6) 文部科学省『学校における性教育の考え方、進め方』(ぎょうせい, 1999) 45-59.
- 7) 下村淳子「養護教諭による高校生への性教育の実践と効果の検討」『心身科学』第2巻(2010), 77-84.
- 8) 財団法人日本学校保健会「AIDS 正しい理解のために」
(<http://www.hokenkai.or.jp/2/2-5/2-51/2-51-21.html>, 2019年12月12日閲覧)
- 9) 石井里佳, 木山慶子「学習者からみたよりよい性教育についての一考察 大学生における性教育の既習状況と学習ニーズに注目して」『群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編』第53巻(2018), 79-87.
- 10) 橋本紀子, 篠原久枝, 田代美恵子ほか「日本の中学校における性教育の現状と課題」『女子栄養大学教育学部研究室紀要「教育とジェンダー」研究』第9巻(2011), 3-20.